

(様式1)

自己評価表(1枚目)

松山北高等学校中島分校
学校番号(22)

教育方針	自律・共同・誠実を重んじる学校生活を通じて、豊かな人間性と不屈の精神を養うとともに、個性と能力に応じた教育の徹底を図り、国家、社会に役立つ心身ともに健全な市民を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 ― 感謝から自立と共生へ ― 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自律心を育みます。 2 体験活動やボランティア活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現します。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	特色ある学校づくり	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成し、地域を生かした体験活動を行う。	B	令和4年度入学生のための教育課程を、現状に見合うように改善した。総合的な探究の時間では地域に根差した体験活動ができている。	新教育課程について今後も分析や検討を続け、改善点があれば対応する。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	B	生徒による評価で「わかりやすい授業」の評価が昨年度より向上した。	基礎・基本の定着を図る丁寧な学習指導に加え、地域の特色を生かした教育活動の充実にも努める。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動を積極的に発信する。	A	学校案内は表紙に生徒を起用し、親近感をアピールするようにした。積極的に情報発信を実施し、HPの学校ブログは毎日更新した。	動画を用いた生徒たちからの生徒目線の情報発信についても考えていきたい。
		年間10日以上教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下	A	公開授業を実施したほか、体育大会や文化祭も保護者に公開した。	保護者が参加しやすい日程を考慮し、期間を設けるだけでなく来校してもらえ工夫をする。
学習指導	教科指導の充実	一人一台端末の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、分かる授業づくりに努め、生徒による学校評価4.0以上を目指す。 A:4.0以上 B:3.7~3.9 C:3.4~3.6 D:3.1~3.3 E:3.0以下	A	一人一台端末は、出席停止期間にオンラインで授業を視聴するなど各教科で活用されており、生徒の授業評価もAであった。	生徒によって習熟度合いに差があるため、苦手な生徒には個別の対応をして底上げを図る。
		各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	A	2年生はほとんどの生徒が3級以上の取得ができた。3年生に関して例年以上に意欲的に取り組み大きな成果を収めることができた。今後もより高い級への挑戦をさせたい。	各学年、みんなで取り組む雰囲気づくりをする。今後は生徒の個性や実力を見極めて上級にも挑戦させる。また、3種目以上の1級取得を目指させた。
	家庭学習の充実	学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保する。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:59分以下	A	調査期間中の家庭学習時間の平均は1日125分であった。	自ら学ぶ態度の育成という観点から、科目や学級に応じた課題の工夫を行う。
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	B	各学年の2月末までの出席率は、1年生87.9%、2年生89.9%、3年生96.6%であり、全体では90%を超えている。
気持ちの良いあいさつができる、時間を守る、けじめをつける、忘れ物をしない、清潔感のある身だしなみを心掛ける、清掃にまじめに取り組める生徒を目指す。			B	身だしなみに関して同じ生徒が繰り返し指導されることが多くなっている状況であったが、粘り強く指導をすることで改善が見受けられた。清掃に関しては、与えられた役割を時間いっぱい取り組む姿勢が見られた。	学校と保護者との連携を常に図りながら、対象となる生徒に対して、継続的に粘り強く指導を行う。また、充実感のある学校生活が送れるように取り組みたい。
生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の連携を図る。			A	口頭から保護者とのつながりやコミュニケーションを取ることで信頼関係ができ、生徒の少しの変化も見逃すことが少なくなってきた。また、情報モラルについても外部の協力を得て指導の徹底を図っている。	保護者に対して必要な情報をHPやSNSを通してできるだけリアルタイムに発信する。
個人面接の充実		面接を学期ごとに一人3回以上(年間9回以上)行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。 A:9回以上 B:8回 C:7回 D:6回 E:5回以下	B	各学年による定期的な面談のほか、誰でも常に相談ができるような体制で取り組めた。また、支援員が加わることでさらに充実してきた。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の様子を観察するとともに早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築く。
交通安全指導の充実		生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努めた結果、交通事故・違反ゼロであった。自転車保険の加入率は100%であった。ヘルメットの着用率もほぼ100%であった。	来年度も事故ゼロを目指して交通ルールの遵守とマナーの向上に努める。
教育相談・特別支援教育の充実	教職員及び保護者との連携と情報の共有を常に図り、一人一人に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	A	支援員の配員、外部の関係機関とも協力を得て、学校としての対応力を高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導することができた。	保護者や外部の関係機関との連携を常に取りつつ、一人一人の現状をしっかりと把握し改善と検討をできるだけ早期に行う。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

(様式1)

自己評価表(2枚目)

松山北高等学校中島分校
学校番号(22)

進路指導	進路指導委員会の充実	担任による進路面談後の進路研究会を全学年、各学期実施し、3年生においては適宜追加実施し、早期に個別で適切な進路指導を行う。	B	各学期毎に担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して各生徒の進路希望を全教員に周知した。学校推薦(進学・就職)も進路指導委員会を通して決定を行い、学校全体で進路実現を目指す姿勢を示すことができた。	1年次から生徒の特性を踏まえ、進路目標を丁寧に模索し、進路実現に向けた具体的な対策と学習習慣の定着を図る必要がある。担任との連携を充実させ、組織的に進路指導に当たる体制を構築する。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	A	保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じたきめ細かい指導が実行できた。しかしながら、3年生の進学・就職率は100%達成しなかった。	家庭と学校生活の様子を保護者と情報共有しながら、生徒の実情を踏まえ、進路実現に向けて早期から計画的に指導する。
		進路指導に関して、担任及び進路課長による面談を充実させ、面接や小論文などの受験指導を丁寧に行う。生徒と保護者に対して適切な情報発信を行い、進路実現に向けて家庭と学校の連携を図る。	A	担任による面談を丁寧に行った。生徒と保護者に対しても適切に情報発信を行い、進路実現に向けた家庭と学校の連携を図ることができた。	進路研修課から、就職や進学に関する情報を発信しているが、指導に関して担任に任せ過ぎているところもあるため、課長面談や外部講師の講習会などを実施し、進路に対する自覚を高めた。
特別活動	特別活動の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒の育成を目指す。	B	各部活動等、限られた時間の中で充実した活動ができた。1年間を通してルールを守って明るく、楽しく、元気に活動する雰囲気を作れた。	サイクリング同好会やフィッシング同好会等の活動を中学生にも発信しながら、特色のある充実した活動ができるような雰囲気づくりと工夫をする。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	A	生徒会を中心に全員が一体感を持って1年間を「やり切る」ことができた。積極的に取り組む雰囲気づくりができた。	今後も現在ある学校行事等を常に見直し、生徒の意見も取り入れた新しい活動に積極的に取り組む。
同和・教育	人権・同和教育の充実	事前の資料配布や相談及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	C	人権・同和教育HR活動ではクラスや生徒の実情に応じた工夫の見られる取組ができた。	教員の外部研修への参加を広く促し、教員の資質向上を図り、教材の工夫に繋げる。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	C	人権委員会活動、講演会等により、校内における人権啓発活動を行った。生徒個々の自尊心をさらに高めていきたい。	人権だよりの発行や地域との交流、フィールドワークに積極的に参加する。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	生徒たちは環境美化に対しての意識が高く、校内の隅々まで清掃等の時間では、最後まで取り組むことができた。今後も続けていきたい。	適材適所に清掃配置を行い、教職員と生徒が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	B	毎月の芝生・校内清掃活動及び、職員校内清掃作業等により、芝生や校庭の行き届いた管理ができた。	季節・天候を考慮しながら効率よく実施するとともに、継続してグラウンドのトラックを常に整備する。また、校内の除草も常に行う。
	保健管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、食育の推進に努める。	B	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を図り、食育の推進に努めることができた。	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を常に図る。
業務改善	危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と定期的な点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	B	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。さらに、防災に対する意識を高めさせる。
	適切な勤務時間	教職員の負担軽減のために、業務の平準化、ICTを活用した情報共有などの効率化、及びテレワークの積極的な活用による時間の有効活用などワークライフバランスの実現を図る。	B	テレワークに関して、出張日や長期休業中の積極的な活用を呼び掛け、昨年度よりも多くの活用実績が得られた。	テレワークの積極的な活用で、ワークライフバランスの実現に向け取り組みたい。業務等の平準化については、業務の見直しとともに進めていきたい。
	職場環境の整備	身の回りの整理整頓を心掛け、働きやすい職場環境づくりに取り組み、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	職員室などの整理整頓を心掛け、働きやすい職場環境づくりを行うことができた。	引き続き、不要物品等を廃棄し、整理整頓を進めていくとともに、教職員の要望を取り入れた働きやすい環境づくりに取り組んでいきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。